

うちどく
家読ブックリスト

うちリス



その5
みず

発行 2023.11



読書を愛するまち・あらかわ
荒川区立図書館

令和5年11月7日・登録(05)0060号

うちリスって？

うちどくのブックリスト、^{りゃく}略して「うちリス」です。

「うちどく（家読）」は、^{どくしょ}読書を通じて^{つう}コミュニケーションを図り、^{はか}家族の^{かぞく}きずなを^{ふか}深めることを^{もくてき}目的にはじまった^{かつどう}活動です。

「うちどく」には^{とくべつ}特別なルールはありません。^{たいせつ}大切なのは、^み家族や^{ちか}身近な^{ひと}人と^{ほん}本を^{たの}楽しむことです。ご^{かてい}家庭にあったスタイルで^と取り組んでみましょう。

例えば、「うちどく」の^ひ日を^き決めたり、^{おな}同じ本を^よまわし読むなど、^た家族みんなでルールを決めて^{はじ}始めてみてはどうでしょう。同じ本をみんなで読めば^{かい}会話もいっそう^{はず}弾みます。

また、^{たが}お互いに本を^そすすめあってもいいでしょう。^{ほん}家族そろって^や本屋さんで^{えら}本を選ぶなど、^うどんな本を読むか^{そうだん}相談しあうことでもコミュニケーションが生まれます。

こんごう

今号のテーマ

^{だいごう}第5号のテーマは「みず」です。

「^{みず}水の^{わくせい}惑星」とよばれる^{ちきゅう}地球は、^{ひょうめん}表面の70%が水でおおわれています。

わたしたち^{にんげん}人間の^{からだ}体もまた、70%（^{おとな}大人は60%）が水でできています。

水は、地球にとってもわたしたちにとっても、なくてはならない大切なものです。

また、水はいくつものすがたをもっています。

^{くも}雲になって^{あめ}雨や^{ゆき}雪をふらせ、^{かわ}川になって^{うみ}海へと^{なが}流れ、やがてまた雲になります。

さまざまに^{かたち}形を^か変えて地球をめぐるのです。

そんな^{ふしぎ}不思議で大切な「みず」についての本をあつめました。

^{ひとり}一人で読んでも、^{いっしょ}一緒に読んでも^{たの}楽しい。

「うちどく」をとおして、^{こころ}心をうるおす^{いっさつ}一冊にであえますように。

【読書の目安】☆ 幼児～ ★ 低学年～ ★★ 中学年～ ★★★ 高学年～

【本の場所】本には、住所となるシールがついています。→ スヒ

本をさがす時は、このシールをめじるしにしてください。

今号の作成：荒川区立中央図書館（ゆいの森あらかわ）

すがたをかえる水

みず

くも 雲、
あめ 雨、
ゆき 雪、
こおり 氷…。
みんな水がすがたを
かえたものです。

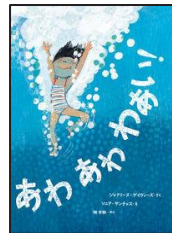


『雨、あめ』☆
ピーター・スピアー／作
評論社

スヒ

にわであそんでいると、あめがふってきた。おねえちゃんとおとうとはレインコートにきがえ、かさをさしてそとにでた。

あめのなか、みずたまりであそんだり、あまみずのながれをみたり、いつもとはちがったあそびをたのしみ、おうちへかえる。字のないえほん。



『あわ あわ わあい!』☆
ジャクリーヌ・デイヴィーズ／作
ソニア・サンチェス／絵
はやし きりん
林木林／訳
ほるぷ出版

サン

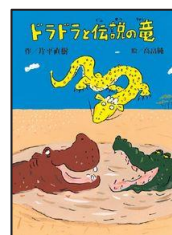
なつのプール、もぐるとあぶくが ぽこぽこぽこ。わたしは ちょうちょやイルカのようにおよげるけれど、おとうとはまだおよげない。わたしだけがしってる、ひかるみずにてらされた もっと したのせかい。あれっ、おとうとがみずにおちそうになっている！わたしにまかせて！



『ガオガオきょうりゅうのよる』
しばいぬチャイロのおはなし・2』
たるいしまこ／作
あかね書房

タル

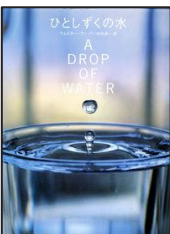
たっくんのうちの しばいぬのチャイロは、たっくんのかさが きになってしかたがありません。あちこちさわっているうちに、かさがひらいてしまいました。かさにかかれた きょうりゅうのえが きにいったチャイロは、かさをさして あめのよるをおさんぽすることにしました。



『ドラドラと伝説の竜』★★
かたひらなおき
片平直樹／作
たかばたけじゅん
高畠純／絵
文研出版

カ

竜なのに、雨をふらせるのが苦手なドラドラ。雨をふらせにお父さんとアフリカにきたけれど、ぼくには無理と、よび止めるお父さんを無視して地上へ。するとモンスターとまちがわれて、モンスターハンターにおいかけてられます。

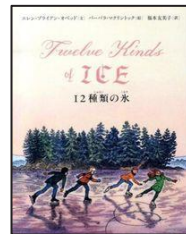


『ひとしずくの水』★★★
ウォルター・ウィック／作
はやし だ こういち
林田康一／訳
あすなろ書房

40

ひとしずくの水といっしょに“旅”をしてみませんか。水蒸気、雲、氷、雪の結晶と、さまざまな姿に変わる水。毎日ふれている水について、どのくらい知っているでしょうか。

一瞬一瞬をとらえた写真に、水のふしぎが浮かび上がってきます。



『12種類の氷』★★★
エレン・ブライアン・オベッド／文
バーバラ・マクリントック／絵
ふくもと ゆみこ
福本友美子／訳
ほるぷ出版

ハ

さむくなってくると、バケツの中に初氷が見つかる。この氷はうすくてすぐにわれてしまう。つぎの氷はもう少しあつみがあり、冬がふかくなると、どんどん氷があつくなっていく。やがてリンクを作り、子どもたちはスケートを楽しむ。12種類の氷とともに、生き生きと冬をすごす子どもたちのお話。



あっちこっち



『漂流物』☆
デイヴィッド・ウィーズナー／作
BL出版

ウイ

「漂流物」というのは、海上や水上に浮かんでいて、流れのままにただようもののこと。

漂流物として海辺にうちあげられた、古い水中カメラ。そのカメラを拾った少年が、フィルムを現像してもらおうと、そこには驚きの世界が広がっていた！



『あまがえるりょうしゃ
トンボいけたんけん』☆

まつおか
松岡たつひで／さく
福音館書店

マツ

あまがえるりょうしゃに、たんけんのさんかきぼうしゃがやってきました。おきやくは、テントウムシ、ダンゴムシふうふ、カタツムリ。ペットボトルでつくったボートにのりこんだら、トンボいけのたんけんにしゅっぱつ！みんな、はじめてみるみずのなかのせかいに、きょうみしんしんです。



『やぶこぎ』
川辺の草はらと生き物たち』
モリナガ・ヨウ／作 ★★
はたさよこ
畠佐代子／作
くもん出版

46

初夏の河川敷におりてみましょう。見上げるほど背の高いオギの葉を、両手でかきわけて進んでいきます。これが「やぶこぎ」です。

河川敷にはゆたかな自然が広がっています。そこで見つかるいろいろな生き物たちと、河川敷の一年をたどってみましょう。



『風車小屋ねこカッチェ』
グレッチェン・ウェルフレ／文
ニコラ・ベイリー／絵 ★★
いまえよしとも えんどういく え
今江祥智&遠藤育枝／訳

BL出版

ヘイ

オランダの海ぞいの村で、粉屋のニコとネコのカッチェは、のんびりくらしていた。でも、ニコにおよめさんがきてから、カッチェはじゃまものあつかいされてしまう。

そんなある日、嵐がきて堤防がきれてしまうほどの大洪水がおこった。



『ともだちは海におい』★★
くどうなおこ
工藤直子／作
ちようしんた
長新太／絵
理論社

外

お茶がすきないるかと、ビールがすきなくじらはコドクがすきだ。でも、星がいっぱいのしずかなよるは、だれかと飲みたいと思っていた。

そんなふたりがともだちになった。散歩したり、本をよんだり、手紙を書いたりして、ふたりのじかんをすごすようになった。



『タマゾン川』
多摩川でいのちを考える』★★★
やまさきみつあき
山崎充哲／著
旬報社

51

アロワナ、グッピー、ピラニア…多摩川には世界中からやってきた「外来種」の魚がたくさんいます。さまざまな理由で放された魚が数を増やしたのです。これではアマゾン川ならぬ「タマゾン川」です。

わたしたちが川と、そこに生きるいのちとどう向き合うか、考えてみませんか。

水めぐり

みず なが し かん せ かい じゅう た び
 水は長い時間をかけて世界中を旅しています。
 かわ うみ いけ みずうみ しん かい
 川や海、池や湖、そして深海。水はどこにでもあるのです。
 ち きゅう
 水といっしょに地球をめぐってみませんか。

『おすのつぼにすんでいた
おばあさん』★

ルーマー・ゴッデン／作

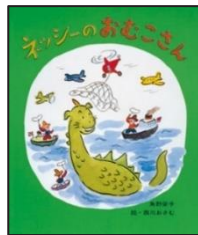
なかがわ ひろ
中川千尋／訳・絵

徳間書店

コツ

おすのつぼの家は、けっして すみごちのよい家ではありません。でも、おばあさんは気にしていませんでした。

ところがある日、いのちをたすけた さかなから「ねがいをかなえてやろう」といわれます。おばあさんのくらしは、だんだん ごうかになっていきますが…。



『ネッシーのおむこさん』★

かどの まい こ
角野栄子／作にしかわ
西川おさむ／絵

金の星社

カト

ネスこに かいじゅうネッシーがいるというニュースをきいた かいじゅうザブー。およめさんになってもらおうと、ネッシーにあいにいくことにしました。

ところが、あやしいふねと かんちがいされたり、ザブーこそがネッシーだと まちがわれたり、せかいじゅうがおおさわぎになります。



『ホホジロザメ』★★

ぬまぐち あさ こ
沼口麻子／文せきしゅん いち
関俊一／絵

福音館書店

48.7

ホホジロザメは世界中のほぼすべての海にすんでいて、大きさは最大6メートルを超える。獲物にかぶりつくときは白目をむき、自分の体を回転させながら、すさまじい力で肉をかじりとっていく。

狩りのようすや子ザメのたんじょうを、^{はくりよく}迫力ある絵でしようかいした本。



『しんかい 6500』

深海のひみつをさがれ!』

やまもと しょうぞう
山本省三／作ともなが
友永たろ／絵

くもん出版

★★

65

“しんかい 6500”は深い海中や^{かいてい}海底をさがり、海のなぞをときあかすためにつくられた有人潜水調査船で、1600回以上も海にもぐっている。

そんなスーパーマシン“しんかい 6500”のひみつと、深海調査のアレコレを大公開!



『ガリバーのおすこ』★★★

マイケル・モーパーゴ／作

すぎ た な な
杉田七重／訳

小学館

モハ

ぼくは^{せんそう}戦争で故郷とよべる場所をなくした。母さんともはなればなれになり、おじさんがいるイギリスに行くために乗ったボートも^{そうなん}遭難してしまう。

目をさますと小人がぼくをとりかこみ「ガリバーのおすこ」とよんでいた。どうやら^{かんげい}歓迎されているようだが、これからどうすればいいのだろうか?



『シャーロット・ドイルの告白』

アヴィ／作

茅野美ど里／訳

さたけ み ほ
佐竹美保／絵

あすなろ書房

★★★

アヒ

上流階級のお嬢さまシャーロット・ドイルは、何の運命のいたずらか、ただ一人の乗客としてシーホーク号に上船することになった。それは、思いもよらない過酷な船旅の始まりだった。

シャーロットが引き起こした恐ろしい事件とは? この船にかくされた秘密とは? 手に汗握る物語。



わたしたちの

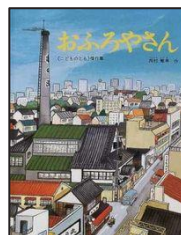


『どうして なくの?』☆
フラン・ピンタデーラ／文
アナ・センデル／絵
ほしの ゆみ 星野由美／訳
偕成社

セン

「ぼくたち どうしてなくの?」マリオはおかあさんにききました。

かなしいとき、おこったとき、いたくてつらいとき、しあわせなとき。「なく」にはいろいろな「なく」がある。だれだってみんな、なくのです。



『おふろやさん』☆
にしむらしば お 西村繁男／作
福音館書店

ニシ

たかいえんとつをみつけたら、おふろやさんかもしれせん。ひろびろとした おふろのかべには、なにが えがかれているでしょうか。ぽかぽかにあたたまって のどがかわいたら、なにをのみたくなるでしょうか。



『どうぶつ みずそうどう』
かじりみな子／作 ★★
偕成社

カシ

たんばにみずをひく「ようすいろ」をつくって、すみやすくなった かえるむら。ところが、あたらしくできたむらの いたちと かにが、むりやりみずのながれをかえてしまいました。このままでは、みずのとりあいできんかになってしまいます。そこで、みんながちからをあわせてつくりあげたものとは?



『かき氷 天然氷をつくる』★★
ほそじままさよ 細島雅代／写真
いじちえいしん 伊地知英信／文
岩崎書店

59

ふんわりとけずられた、つめたくておいしいかき氷。全国で数軒しかない天然氷をつくる氷屋は、どんな仕事をしているのでしょうか。

天然氷は自然の冬の寒さを助けに、ほとんど人の手間でつくられます。天然氷がつくられるまでのくふうと苦労をのぞいてみましょう。



『なんて くさいんだ!』
ロンドンを救ったジョゼフの物語』
コリーン・ペフ／文 ★★★★★
ナンシー・カーペンター／絵
かねはらみずひと 金原瑞人／訳
あかつき教育図書

51

1858年、ロンドンのテムズ川はうんちであふれて、とてもくさかった。そのせいでコレラという伝染病が流行し、たくさんの死者がでてしまった。

土木技師のジョゼフはテムズ川をきれいにするため、ある計画をたてる。ロンドンを健康的できれいな街に変えた彼のすばらしい仕事を見てみよう。



『肥後の石工』★★★★
いまにしすけゆき 今西祐行／作
岩波書店

B 17

九州に江戸時代から残る石橋があります。石橋は敵がせめてきた時のために、一つの石をはずすと落ちるように作られ、そのひみつがもれないよう、職人たちは「永送り」で切り捨てられてしまいます。

永送りから一人生き残った岩永三五郎の、命がけの職人人生の物語です。

みず くらしと水

みずはさまざまな形でくらしをささえています。
ひとびとはよりよいくらしのために努力を重ねてきました。
むかしばなし 昔話にも水にかかわるおはなしがでてきます。



『雨の日の地下トンネル』☆
かまた あゆみ 鎌田歩／作
アリス館

52

あめがふると、あまみずはどうろのしたへながれ、あつまったみずはかわへながされます。でも、もっとたくさんあめがふったら、かわもあふれてしまうかもしれません。

そんなときに、まちにみずがあふれないようにかつやくする、ちかのトンネルがあるのです。

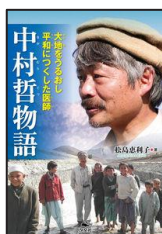


『「イグルー」をつくる』
ウーリ・ステルツァー／写真と文
千葉茂樹／訳 ★★
あすなろ書房

38

ほっきょくちほう 北極地方に住むイヌイットとよばれる人びとは、かつては雪で作った家にくらしていました。それが「イグルー」です。雪はいくらでもあって、自由な大きさに作れます。夏になればとけるので、狩りで移動するときもこわす必要がありません。

イグルーの作り方を、美しい写真で紹介しします。

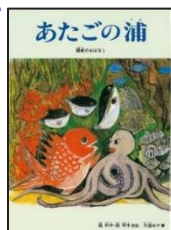


『中村哲物語』
大地をうるおし平和につくした医師』
まつしま えりこ 松島恵利子／著 ★★★★★
汐文社

28 冊

パキスタンとアフガニスタンにまたがり医療支援を行っていた、医師の中村哲先生。

大千ばつの中、飢餓で命を落とす人々を目の当たりにした先生は、「医療よりも水だ」と自ら井戸を掘り、用水路を建設します。その結果、65万人もの命が救われたのです。



『あたごの浦』
讃岐のおはなし 日本の昔話』☆
わきかずこ わきあきこ 脇和子・脇明子／再話
だいたい 大道あや／画
福音館書店

アタ

「こらこら、おたこ、おまえはそこで、なにをしようや」「へえ、おなすびちぎって、食べよります」すなはまでこんなふうに出会った鯛とたこ。「今晚は、お月さんがきれいなけん、ひとつ、魚どもを集めて、演芸会でもせんか」
にぎやかな夜のはじまりです。



『ヴォドニークの水の館』
チェコのおかしばなし』★
まきあつこ／文
ふりや 降矢なな／絵
BL出版

ホト

まずしいおすめは水辺の主ヴォドニークにつれていかれ、水の館ではたらくことになりました。

おすめはいつけをよく守り仕事をしていましたが、ある日、のぞいてはいけなと言われていたつぼのふたをあけてしまいます。



『イワシ大王のゆめ』
韓国のおかしばなし』★★
チョン・ミジン／再話
イ・ジョンギョン／絵
おおたけきよみ／訳
光村教育図書

イワ

東の海にすんでいるイワシ大王が、なんともふしぎなゆめをみました。そこで大王は、ゆめうらないがよくあたることでゆうめいなハゼを西の海からつれてくるよう、ヒラメにいつけました。

ヒラメは、とおくけわしい海をけんめいにおよいで、ハゼをたずねていきました。

どくしょかい
おうち読書会に
しょうたい
招待しよう！

読書会のお知らせ

_____様

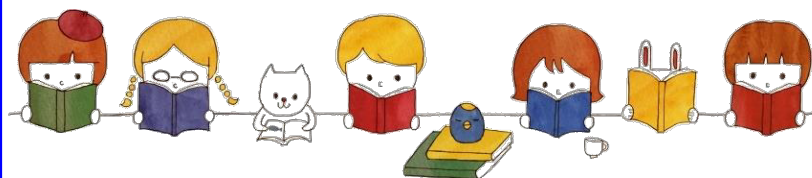
読書会をひらきます

にちじ 月 日 時から

ところ

本のだいめい

当日までに本を読んでみてください



★みんなで同じ本を読んで、その本について話しあってみよう！

- ①読む本を決めよう
- ②読書会の日時を決めよう
- ③招待状を渡そう（招待状はコピーして使ってね）
- ④読書会までに本を読んでおこう

